



第4回総会を開催します！

【日程】11月4日(日)

【会場】杉並公会堂(東京都杉並区)

スライドトークや交流会も予定しています。詳細は別紙をご覧ください。

そして、大阪・現地報告会も！

【日程】11月17日(土)【会場】高槻現代劇場(大阪府高槻市)



● 山の学校訪問日記

● 【別紙】第4回総会・現地報告会のご案内

今年の1年生

会員の皆様、盛夏を迎え、いかがお過ごしでしょうか。私どもは6月18日に公式訪問を終え、無事、帰国いたしました。

カブールでは、空港まで出迎えてくれたサフダル校長とヤシン(ヨシム)先生からうれしいニュースを聞きました。教育省の視察時に行われた学力テストで、「山の学校」の子どもたちが、人口24万人のパンシル県の全学校で一番の成績を収めたといのです。サフダル校長は「視察官に、「これも日本の友人たちのおかげです」と胸を張って答えた」と話してくれました。

さっそく、学校に着くなり、まず4年生の教室で「1番になったんだね、おめでとう！」と声をかけると、ほにかんだ笑顔があふれ、一斉に拍手が起きました。私も、本当にうれしくなりました。

悲しいニュースもありました。ジュマ・ハーン君(本誌第5、7号に登場)が肝臓がんで死んでしまったのです。つらいニュースがあっても、希望を胸に張り切って入学してきた新入生たちの顔を見ると、救われる思いがします。1年生の中に、ジュマ・ハーンに似た子を見つけ聞いてみると、やはり弟でしたし、教室の1番前で、黒板を見上げているのは、あのゼケルラー(同第1、3号)の妹でした。この子たちが大きくなるまで、見続けていこうという思いを新たにしたり、今回の訪問でした。皆様、これからも変わらぬご支援をお願いいたします。

長倉洋海

山の学校訪問日記

6月6日から18日まで、長倉代表と3人の運営委員が山の学校を訪問しました。

◇カブール着 6月6、7日

6月6日、大阪、ドバイを経てカブール到着。今回の公式訪問は、運営委員の比留川、森、高橋が自費で同行、計4名の訪問団となる。安井さん宅に荷を下ろすや、識字教育のパートナー、オッフアリンを訪ねるが、ピーター代表から、「識字教育の打ち切り」を知らされる。学校と識字教育のスーパーパーバイザーを兼務する教員がいて、時間的にまともな運営が困難と判断したようだ。最低3年は続けたいと思っていたが、「他の組織に頼るのではなく、独力でもできる範囲で」と考え直すいい機会となった。

翌日、アフガン教師のスキルアップ講習（日本のJICAが支援）担当者の須田さんに面会。ポーランドまで教員研修のための講師派遣を打診する。訪問前からコンタクトを続けたかいあって「さっそく聞いてみましょう」という前向きな返答をもらう。

1年前に購入し、ポロポロになったタイヤを交換し、もろもろの車のメンテナンスを済ませ、医薬品と蛍光灯を買い足す。

◆1年ぶり、山の学校へ！ 8～12日

8日朝、パンシールに向かうが道路は事故で大渋滞、着くのが午後になってしまったので、その日は、麓のバザラックで1泊。翌9日の朝、山の学校に向かう。途中で大

雪渓を見たが、学校から上へは今も雪が残り、車は行けないという。

1年ぶりの学校訪問だったが、子どもたちは元気な笑顔で出迎えてくれた。私は早速、焼いてきた400枚以上の子どもたちの写真を配る。2年前に母親を亡くしたジユマ・ハーンを励まそうと、彼の素敵な表情の写真を持ってきていたが、死んでしまったことを知り、代わりに兄のヌールに手渡す。同級生に泣かされた弟を、懸命にかばっていたヌールは一瞬、悲しげな表情に。それでも、シユワイブ、カティープ、ナイマ、アミン……と懐かしい顔に次々と再会できた。

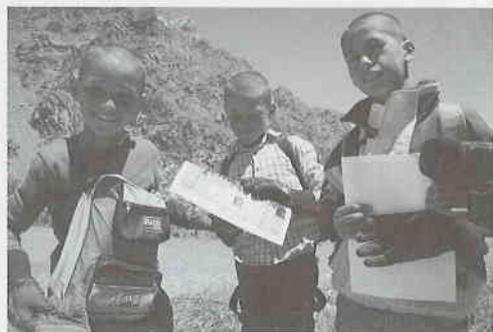
比留川が日本で用意してくれた指人形で劇を全校生徒の前でする。「日本から13時間、飛行機を2回、乗り換えて、みんなに会いにやってきたんだ」で始まる人形劇。前夜、4人で練ったシナリオに子どもたちの瞳が輝く。そのあと四国のスワニーさんからいただいた冬の手袋を生徒に配布する。本来は、昨年の断食明けのイードに届ける予定だったのだが、荷が返送されてしまい、新たに持参したのだ。子どもたちは大喜びで、はめたまま帰る子が続出。午後、運営委員がホラム（コラム）先生の家で子どもたちの母親10名と懇談。男性の私は加われないので、下校の子どもたちと一緒に上流部の集落ゴドランに向かう。用務員アブドルの家に泊めてもらうが、電気が来ているのに驚いた。川の水を利用した10世帯用の小さな電力で、月1000円の使用料とのこと。電気が来て道路がよくなっても、

生活の困難さは続く。運転手を兼ねているヤシン先生の家は大雨に続く地震で崩れてしまったし、川のすぐそばにある集落はいつも洪水の危険がある。

11日朝、5時起きして、ローヤとファイマの放牧に同行。心臓が口から飛び出るかと思うくらい険しい斜面。子どもたちは平気だが、私はついていくのがやっとだ。放牧の終わった子どもたちと登校途中、道沿いの金網を見る。植えたリンゴの苗を羊や牛に食べられないようにしたものだという。町で売れる作物を作っても、下の町まで運ぶのに3時間もかかる。

高学年のクラスで、森が持参したコンピュータで2年前の訪問ビデオを再生すると、初めて見るコンピュータに子どもたちの目が釘付けに。その後、運営委員が子どもたちの顔写真入りの名簿を作ろうと、通訳のオマール君の協力で撮影とインタビュを開始。一日2学年ずつの作業、ほかに

も時間割を写し、図書整理と大活躍。体育の時間、女の子たちにボールや縄跳びなどを使ってもらう。



手袋のプレゼントをもらって

学校を4年で中退し、首都の自動車修理工場で働いていたサタールが学校に顔を見せる。勤めていた工場の持ち主が人身事故を起こし逮捕され、工場は閉鎖されてしまったという。「山の学校」の写真集に見入っているサタールの姿に胸が痛む。

12日。学校の図書の貸し出しを促進しようと貸出カードのシステムを考案、先生たちに伝える。学校が終わってから地元有力者サーズデインの家で昼食をこちそうようになので、先生たちと話して学校前のわずかな土地を利用することにする。巨石をトラクターで取り除き、整地し、子どもたちに使ってもらうよう計画を転換する。

◇カブールで買い出し 12～13日

カブールに一度戻り、1年生用のリュックサック10個と、音楽の授業用のCDプレイヤーを購入、世界の子どもの歌を聞いてほしいからだ。首都の路上で、「マソードのところ、オマール（私の通称）と一緒に買った」というパシトゥン人2人に話しかけられる。「タリバーンと政府の和平交渉を試みているがなかなか難しい。マソードが生きていれば」と悔しげに話す。

◆再び山の学校へ 14～16日

ポーランドに向かう途中、下のバザラックの中学に通学するシラスデインの姿を目にする。小児まひの後遺症で両足が内側に曲がっているが、杖を使わず自力で歩いている。3時間は優にかかるだろう。水泳中の落石で片足を失ったナスラトラーも元気

下の中学に通っているし、彼らの向学心に胸が熱くなる。

山の学校で10個のリュックサックを1年生に配るが、2年生のものもぼろぼろだ。傷みが激しい子の分32個を帰国前に買い足すことを決定。車も傷みが激しい。スピードを出すと制御できなくなることもあるとヤシン先生。ドバイでハンドルの位置を付け替えていることが原因か、何台か激流に突っ込んだ車もあるらしい。そんな事故が起きる前にと車の買い替えを真剣に考える。今の車を2000ドルで引き取ってもらえるようなので、車に詳しい安井さんの夫サプールの同行のもと、車を買って替える方向で4000ドルを安井さんに預けてくる。校長のサフダルから車のガレージを作ってほしいとの要請。いま車を置いている地域の長老トウジュデインの駐車場が満杯になり、出て行かざるを得ないという。昨年、副大統領のジアに頼んでコンテナをもらう約束をしたのだが、現地の管理者が渡してくれないらしい。冬のことを考えると屋根付きのガレージを作った方が車は長もちするし、結果的にメンテナンス費も安くなり、盗難の心配も少ないという話。出費は痛いという話。出費は痛いという話。出費は痛いという話。



子は？」と問うとたくさんの手が挙がる。この日だけで21名が借りていった。残りの2学年のインタビューを済まし、日本に届ける絵を3、4、5年生に描いてもらう。習いたての英語のアルファベットで自分の名前を入れた子、オマールと日本の友人たちへとメッセージを入れてくれた子、どの子も一生懸命にかいてくれた。その午後、運営委員3名とともに上の集落へ。途中、今日、学校を休んだアミンと姉のナフィサに出会う。一日中、村の羊を連れて放牧に行っていたという。足を痛めている父親の代わりだった。朝5時から出かけたという2人。背負った通学用のザックには山菜のソーイがびっしりで、手には葉草の束。学校が好きでも、毎日に行けない現実。2人の家では、2年のサミと1年のモジャミンが4歳の弟と3歳の妹の面倒を見ていた。15日、金曜日で学校は休みなので、集落の3軒の家を家庭訪問する。どの家も温かく迎え入れてくれ感謝の言葉をいただく。シーラとシユワイブの父親は「支援がなければ、子どもたちを学校に送ることはできなかつたらう」と話し、ローヤの母親は「日本の支援者へ」とたくさんのクルミを持たせてくれる。

◇カプール、そして帰国 16〜18日

16日夕方、計7日間のパンシール滞在を終え首都カプールに戻る。翌日、須田さんと打ち合わせ、講師派遣を月末にすることに決定。その後サフダルの依頼で、米NGOで働くポーランド出身の若者と会う。彼

の機関と共同して英語教師を雇い、山の学校に派遣できないかという話だ。月150〜200ドルの分拍だと言うが、「そのお金があるなら第一に教師たちの給与を上げてあげたい。もちろん英語も大事だが、子どもたちにはもつと国語や歴史、地理を勉強してほしい。みんな英語が使えるようになり都会に出てしまつたら、ポーランドなどの農村はさびれ、農業も崩壊する。そうならばマスードも悲しむと思う。マスードは外国語ができなくても素晴らしい指導者だった。そんな人物こそ、この学校から生まれてほしい」と話し、申し出は断った。

* * *

今回の訪問では、風邪をこじらせ体調が悪かった私に代わって、3人の運営委員が奮闘。ひとりでは到底成し得なかつたような多くの成果を残すことができたと思えます。日本の中古車があふれ、排気ガスに咳き込むカプールの街。清らかな空気のパンシールを懐かしく思い出しながら、カプール市内を車で走っていた17日、ラジオから「警察の車を狙った自爆テロ発生、30人以上が死亡」というニュースが流れた。後で日本人ふたりが巻き込まれたという続報を聞き、がく然とした。どんな理由があるにせよ、アフガンの大地でこれ以上の血が流されたいようにと願いながらアフガニスタンを後にしました。

ながくらひろみ ● 本会代表、写真家。1952年釧路市生まれ。世界の紛争地を訪ね、そこに生きる人々の姿を追う。92年「マスード 愛した大地アフガニスタン」で第12回土門拳賞受賞。2006年「アフガニスタン 山の学校の子どもたち」(信成社)を出版。

現地での支援活動より

【日本から届けたもの】長倉代表撮影の写真(約400枚)、手袋(201双)、新1年生用の筆箱セット(30セット)、山の学校写真集(6冊)、図書(ベルシャ語164冊、ベルシャ語訳付6冊、日本語1冊)、指人形(4種類)、リュック(34個。これだけは事前に航空便で送付。タイミングよく届いていました)

【現地で調達したもの】身体の小さな子どもたち用のリュックサック42個(168ドル)、医薬品一式(約63ドル。消毒液、ガゼ、風邪薬、抗生物質、下痢止め、目薬など)、CD/テープ・プレーヤー(CDや電池込みで約75ドル)、蛍光灯やコード、電気工事用部品など(約141ドル)

【現地で新たに発生した経費】2日間の教師研修実施費用(380ドル)、駐車場建設費用(1000ドル)、校庭整地費用(400ドル)、電気工事費(60ドル)

※日本からの荷物発送について

昨年7月〜10月に3回に分けて船便で送った荷物(手袋・リュックサックなど)合計8箱中7箱が5月末に「受け取り拒否」で事務局へ戻ってきてしまいました。「そんなはずはない」とすぐに再送しましたが、実はカプール郵便局では私書箱に入りきらない大きな荷物は10日間経過すると返送されるのが判明。今後は訪問時に届ける(航空機の荷物重量制限が厳しくなっていますが)か、現地調達するなどして、日本からの発送を極力控える方針です。

札幌にてチャリティーセール開催
売上をご寄付いただきました!!

2/27〜3/4、札幌のギャラリー大通美術館で「長倉洋海オリジナルプリントチャリティーセール」が開かれ、その売上額86万9542円を当会への支援金としてご寄付いただきました。

展示は、複数の展示室を仕切る壁を取り払った広い空間を用い、壁に300点、床に200点余りもの作品を並べた大規模なもの。入口で来場者に手袋を配り、各々が写真を自由に手に取って選んでいただける手法も好評で、期間中1000人以上の方々が出来場されました。中には「毎年やってください」と言われる方も。開催にあたっては、同ギャラリーのご好意により無償で会場が提供され、発起人の奥村依子さんを中心に、お知り合いや近所の方など10人を超えるボランティアスタッフが、木箱30個分にもなる作品の搬送から展示に至るまで大活躍されました。

ご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました!!



(写真下：青島功さん提供)

事務局から

●書き損じはがき・不要切手 多くの方からご提供をいただき助かっております。今回の会報の送料もすべてご提供いただいた切手によるものです。引き続きご協力をよろしく願います。

●住所変更のご連絡を 転居等で住所が変更される場合は必ず事務局にご連絡をお願いします。お送りした会報が宛先不明で事務局に返送され、お届けできないケースが現在4件あります。

広がれ! パネル展の

全国各地で開かれた「アフガニスタン山の子どもたち」パネル展をご紹介します!

【東京】武蔵野商工会館1階 4/11〜15
通りに面したガラス張りの会場は「通行人の目を引き」「これは子どもに見せなければ」と、後で小6の息子さんを連れて訪れてくださったお母さん。他の用事で会館を訪れ、思わず写真に見入る人影の絶えない5日間でした。「表情が素晴らしい」「勉強もお手伝いもしていて感心しました。子どもたちの絵と映像もいただきました。子どもたちの絵と映像も人気でした。」(寄稿：パネル展武蔵野実行委員会)

【北海道旭川】Art Space/Cafe MOKERA 9/8〜29
2002年6月にオープンしたギャラリー「カフエ」の5周年として、板谷峰子さんがパネル展を企画。かつてアイヌのコタン(村)だったという里山のギャラリーに家族連れが多く訪れました。写真と同時に展示した山の学校の子どもたちの絵を、小さなお子さんたちが一生懸命見つめる姿がとて印象的だったそうです。

また、5月31日に東京・市ヶ谷で開催されたセミナー「未来のアフガニスタンの礎を築く」(JICA他主催)の会場ロビーでパネル6点を展示。セミナーには来日したアトマル教育大臣の他、同国教育支援のNGOや大学教授などさまざまな専門家が出席し、山の学校で学び子どもたちの様子にも熱心に見入っていました。

●「支援のお願い」チラシをリニューアル!
「アフガニスタン山の学校支援のお願い」の表面が、写真を全面に出してより見やすくインパクトあるデザインになりました。会員増にご活用いただけるのでしたら郵送もしますのでご連絡ください。ホームページからダウンロードもできます。

●会報「はあーる」制作スタッフ募集!
編集やDTPの経験がある方、東京近郊にお住まいの方を歓迎します。

話そう! ダリ語

دیگر رنگ دارید؟ (قسم)
دیگار رنگ دارید؟ (قسم)

دیگار رنگ دارید؟ (قسم)
دیگار رنگ دارید؟ (قسم)

ارزان کنید
ارزان کنید

آلغازی کو نود!
آلغازی کو نود!

「まけてください」
「まけてください」

参考文献：嶋岡尚子著『旅の指さし会話帳 アフガニスタン』 ダリ語：高橋美香

会費を分割でお支払いの方へ

遅くなりましたが2007年度の分割会費の振込用紙を同封しましたので納入をお願いいたします。会費の分割納入に関してお問い合わせがありましたので、あらためてご説明させていただきます。

★3年分納めたが未納のお知らせが届いた…
分割会費は1年以上間を空けずにお支払いをお願いします。「3年分まとめて納入したのに未納のお知らせが来た」という方がございましたが、振込用紙は経理上その年度に会費納入があったか否かで判断させていただいて同封しています。お振り込み時に例えば「3年分」とご連絡いただいた方には別途対応しておりますので、ご希望の方はその旨お知らせください。

お申し出なく連続して2年以上納入がなかったときは、自動的に退会扱いとなってしまいます(規約第3章・第7条)ので、どうぞご注意ください。当会としても極力そうならぬよう対応したいと思いますが、皆様におかれましてはよろしくお願い申し上げます。

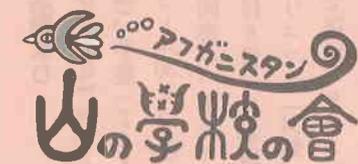
★年会費3000円ではないのですか?

当会の会費は「年会費」ではなく、「2004年度から2013年度の10年間の活動支援金として3万円」です。原則としてご入会時に納入いただきますが、分割払いも可能です(第3章・第6条)。分割の場合、入会年度によって残り期間で均等割しても額が異なるため、2年目以降に入会された方は一律に3000円/年にはならないことをご理解ください。分割納入に関するご説明が不十分だったため、ご迷惑をおかけしましたこととお詫びいたします。

★宛名ラベルをご覧ください

中には1回につき3000円〜残額すべて、とその都度任意の額納入される方や、年に数回納入される方もおられます。毎回会報お届け時の封筒の宛名ラベル、会員番号の下に会費の残額を印刷していますので参考にさせていただきます。

ご不明な点等ありましたら、どうぞ事務局までお問い合わせください



アフガニスタン 山の学校支援の会
〒187-0032 東京都小平市小川町1-1071-15 比留川 気付
FAX/留守番電話:042-345-7805
HP:www.h-nagakura.net/yamanogakko
E-mail:info.yamanogakko@yahoo.co.jp
郵便振替口座:00160-1-667404

編集 ● 岩動紫 大守裕 佐々木瑞紀
水間真紀
題字 ● 近藤理恵
印刷 ● (有)アドタック

【編集後記】皆さん、こんにちは! お元気ですか? 今10号は6月の公式訪問後の発行となりましたため、大変長らくお待ちしてしまいました。今回は運営委員3名も同行し、現地でも多くの活動を行うことができました。11月に行う第4回総会・現地報告会では、子どもたちのたくさん笑顔にあふれた今回の訪問の様子を、写真はもちろん、ビデオなども用いてお知らせする予定です。多くの皆様のご来場を、お待ちしております。

【アフガニスタン山の学校支援の会】は、写真家・長倉洋海が取材活動を通して出会った、パンシール渓谷ポーンテ村の子どもたちの教育支援を目的として設立された非営利の団体です。2004年2月に設立、以後2014年3月までの約10年間にわたり活動を続けていきます。

【長倉洋海 最近&今後の活動】
●開催中 8/19
長倉洋海写真展「子どもたちの大地」
鶴岡アートフォーラム(山形県鶴岡市)
電話:02355(29)02660